

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大 学 名	九州大学
タ イ プ	A-I
構 想 名	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>各大学の国内 PDCA 委員会や代表者で構成する国際 PDCA 委員会主導の下、カリキュラムの諸問題に関する議論を行い、ダブル・ディグリー制度導入に向けた単位の相互認定などについて、3カ国の状況が十分に比較検討されている。本プログラムは、質の保証のための無理のないカリキュラム体系が構築されており、計画どおり堅実に進められている。</p> <p>外国人学生の受入及び日本人学生の派遣に当たっては、CAMPUS Asia オフィスを設置して専門スタッフを配置し、全学的で十分な支援体制が敷かれている。また、外国人学生のキャリアパス開拓のために民間企業との接触や情報提供を図るなど、先進的な努力もなされている。日本人学生についても、CAMPUS Asia オフィスに配置された韓国籍、中国籍の教員の留学先大学への同行、生活上の支援、派遣前のオリエンテーション、TV会議システムや Skype などを用いた十分なコミュニケーションとサポートを実現している。</p> <p>総合理工学府の中での事務組織体制の構築と強化、ホームページによる外部への情報発信などが進み、申請時の計画に沿った形での着実な実施により、大学全体を巻き込んだ国際化が進められつつある。</p> <p>平成24年度には、計画どおり中韓の2大学に日本人学生各3名を半期交換留学させている。また、サマースクールについては、数値目標を上回る学生が派遣されている。学生の語学力については、サマースクール参加人員確保のため、やや低い TOEIC スコアの設定となっているが、継続的に受験させ、進捗を確認している。</p> <p>全般的に着実に推進体制が構築されており、計画の前倒し実施や、学生の将来のキャリアまで考慮した意欲的な取組姿勢が見られることから、今後も継続して計画を遂行し、事業目的を達成することが望まれる。</p>	